

# R&U使用調査アンケート集計報告(2013年)

【アンケート期間】 2012年6月～12月  
 【対象】 全国の動物病院（主に原因不明の脱毛症を対象とした）  
 【項目】 動物の種類・品種・性別・年齢・体重・R&U使用の目的(症状)・使用期間・併用薬の有無・結果(5段階)  
 【回収数】 60症例

## 症例内訳

### 使用動物の種類

犬 ..... 59  
 フェレット..... 1

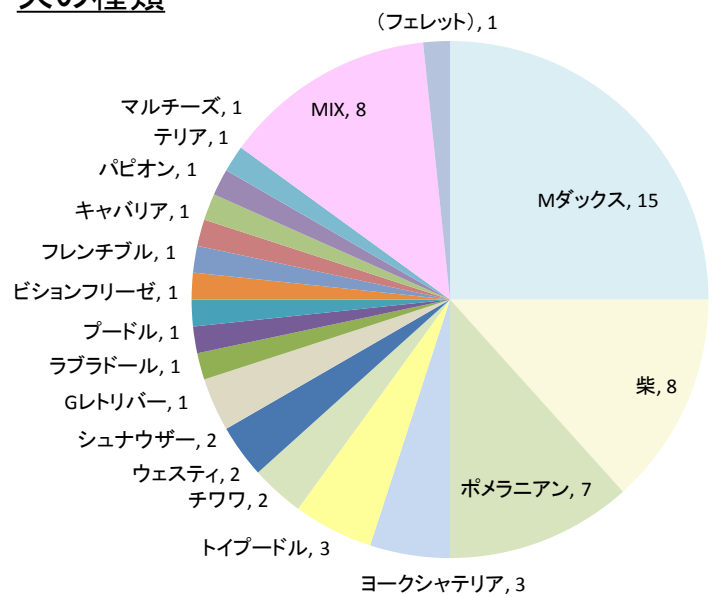
### 使用した症状・目的

脱毛(原因不明) ..... 32  
 術後の発毛促進 ..... 11  
 アトピー(アレルギー)..... 10  
 パターン脱毛 ..... 4  
 アロペシアX ..... 3

### 使用期間

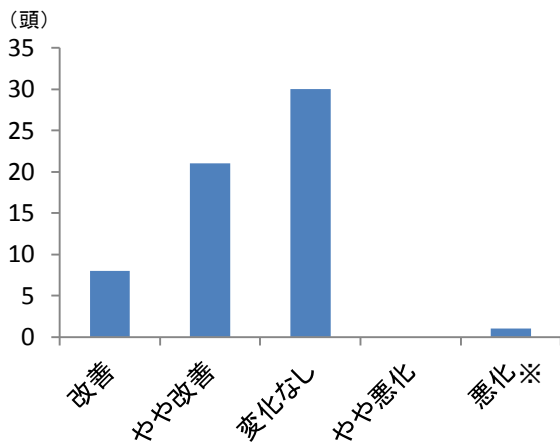
1ヶ月未満 ..... 23  
 1～2ヶ月 ..... 33  
 不明 ..... 4

### 犬の種類



## 効果判定(改善・やや改善・変化なし・やや悪化・悪化)の5段階判定

### 全症例(60症例)



※悪化はアレルギー性皮膚炎併発

対象の多くが原因不明、短期間の使用ということもあり、変化なしの例が一番多かった。

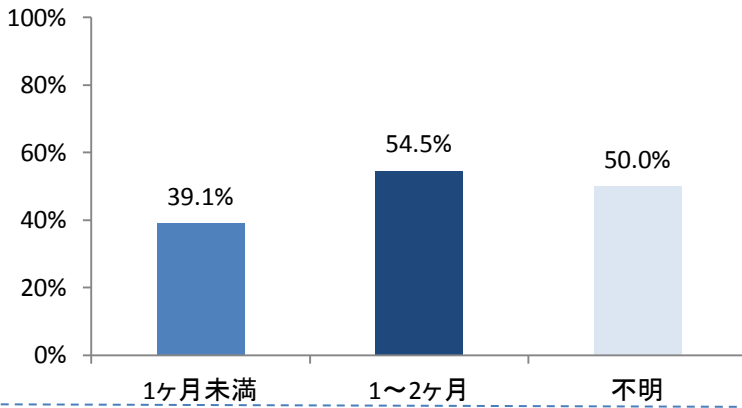
全体では改善8例、やや改善21例で改善率は48.3%であった。

### 犬種別改善率

犬種別頭数	改善	やや改善	変化なし	悪化	改善率
Mダックス 15	4	11			26.7%
柴 8	5	3			62.5%
ポメラニアン 7	1	3	3		57.1%
ヨークシャテリア 3	2	1			66.7%
トイプードル 3	1	2			33.3%
チワワ 2	1	1			50.0%
ウェスティ 2	1			1	50.0%
シュナウザー 2	1	1			50.0%
Gレトリバー 1	1				100.0%
ラブラドル 1	1				100.0%
ブードル 1	1				100.0%
ビションフリーゼ 1			1		0.0%
フレンチブル 1		1			100.0%
キャバリア 1			1		0.0%
パピオン 1			1		0.0%
テリア 1		1			100.0%
マルチーズ 1			1		0.0%
MIX 8	1	3	4		50.0%
(フェレット) 1	1	1			100.0%

※改善率=(改善+やや改善)/全体

## 給与期間別



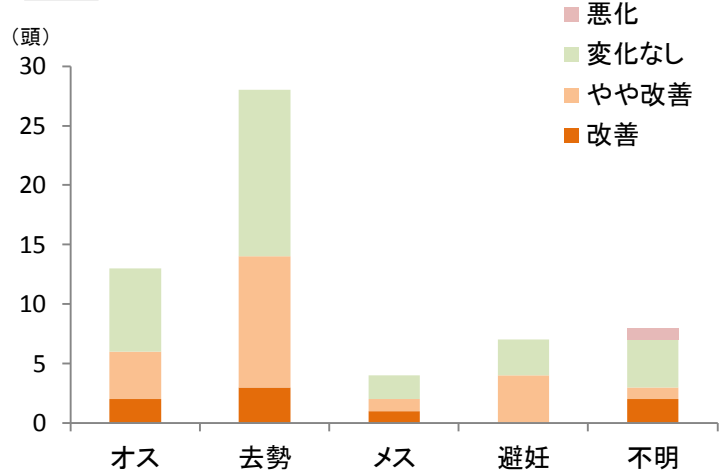
1ヶ月未満の給与でも効果を得ている症例もあるが、全体としては1ヶ月未満の給与よりも1~2ヶ月給与している症例の方が改善率が高くなっている。

前回調査(2011年)でも給与期間が長いほど改善率が高い傾向となっていた。

## 症状・目的別

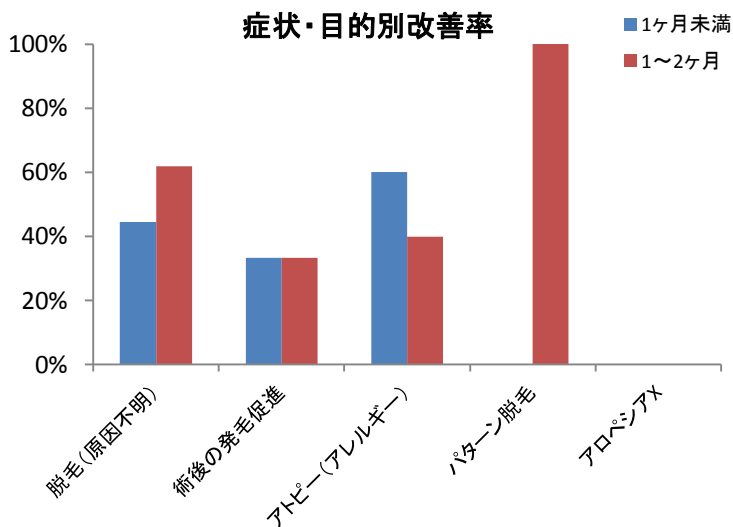
症状別頭数	改善	やや改善	変化なし	悪化	改善率
<b>脱毛(原因不明) 32</b>	<b>6</b>	<b>12</b>	<b>14</b>		<b>56.3%</b>
1ヶ月未満	2	2	5		44.4%
1~2ヶ月	4	9	8		61.9%
不明	2	1	1		50.0%
<b>術後の発毛促進 11</b>		<b>4</b>	<b>7</b>		<b>36.4%</b>
1ヶ月未満		2	4		33.3%
1~2ヶ月		1	2		33.3%
不明		1	1		50.0%
<b>アトピー(アレルギー) 10</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>50.0%</b>
1ヶ月未満		3	1	1	60.0%
1~2ヶ月		1	3		40.0%
<b>パターン脱毛 4</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>		<b>50.0%</b>
1ヶ月未満			2		0.0%
1~2ヶ月		1	1		100.0%
<b>アロペシアX 3</b>			<b>3</b>		<b>0.0%</b>
1ヶ月未満			1		0.0%
1~2ヶ月			2		0.0%

## 性別



今回の調査では去勢オスへの使用が28例と一番多かった。改善率については避妊メスで57.1%と一番高くなった。

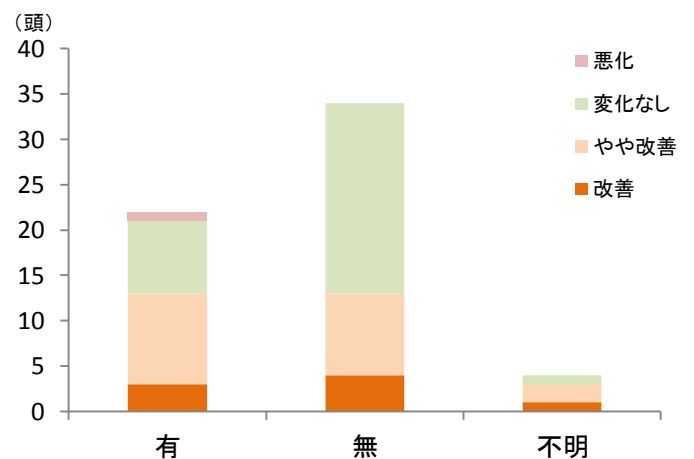
## 症状・目的別改善率



症例数が一番多かった原因不明の脱毛については全体で56.3%、1~2ヶ月間の給与では61.9%という改善率であった。

今回の調査ではアロペシアXの改善が見られなかったが、症例数が少なかったこと、給与期間が短かったことが要因と考えられる。

## 併用薬の有無



症例数は併用薬無しが多かったが、改善率では併用薬有りで59.1%と高かった。

アンケートにご協力いただいた先生方にお礼申し上げます。今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。